第５回ＦＤ研修報告

「ｅラーニング活用セミナー」　～ｅラーニング活用で効果・効率・魅力のある教育を～

講師：内田 実　特定特任教授（メディア教育開発センター）

日時： H18 年 6 月 30 日（金） 13:00ー17:10 迄

場所： 交流センターLL 教室

参加者： 9 名

●研修内容

□ｅラーニングの変遷と定義

・1980 年代後半から、学習コンテンツを CD-ROM などで配布し、PC で学ぶ学習形態が導入されはじめた。90 年代になると、ネットワークを介した学習コンテンツの配信、成績や履歴管理などが行えるようになった。90 年代後半には、トレーニングよりもラーニング機能を重視し、ヘルプデスク、掲示板、チャット、メールの設置など、双方向性を高めた学習形態の導入が進められた。

・ｅラーニングとは、ネットワークを利用するもので、教育内容や情報の更新、保管、検索、配布、共有が即時に可能で、標準的なインターネットテクノロジーを使い、コンピュータを介してエンドユーザに届けられる。ｅラーニングは、学習というものを非常に広い視野で捕らえ、従来のトレーニング重視の考え方の限界を超えた解決する方法を提示するものである。

□参加者各自の自己紹介(ｅラーニングに対する自分の姿勢、考え表明含む)

・日々の授業などに追われてできていない。コンテンツを充実するのが先決と認識している。

・コンテンツ作成などが必要だといわれているがどうしたらよいかわからない。学生への配信はできるが支援をどうしたらよいかわからない。

・webCT は利用していない。コンテンツは PC 上にあるが、著作権の問題がある。双方向性の授業をどうするか検討中。

・webCT に教材(講義資料、レポート)などに利用しているが、アクセスは人によってばらばらで、授業で双方向性を確保するため、質問カードなどでカバーしている。

・webCT に教材(講義資料、レポート、小テストの回答）、連絡事項や質問の受付などに利用しているが、学生間のアクセスの差が大きすぎる。webCT を通して補習することで、授業の補助的効果がある。

・webCT で授業関連（試験も含む）の対応を全て行っている。臨海センターにいるので、webCT を利用した方が学生への対応がしやすく、学生にとってもレポートの提出や授業を休んだときの自習ができるので評判が良い。ただし、著作権の問題は大変気になっている。
・実習指導が主体であり、講義を持っていないので使用していない。
・特に学生から webCT が良いという評判も聞かないので取り入れていないが、有効に利用できるものが使ってみたい。
・これまで興味も無く使い方も分からなかったので、webCT は利用していない。ｅラーニングで何ができるのかが知りたくて参加した。

□ｅラーニング活用の現状と導入における留意点
・ｅラーニングが失敗した理由として、利用者のニーズに合わない教育の提供、個別の要求に対応できない、学習後に活用できない、サポート体制（インストラクショナルデザイナー、学習支援、教材作成、メンターなど）が無い、などが挙げられる。
・大学教育においても、録画授業をウェブに配信するだけでは、学生はあまり利用しない。キャンパスが離れている大学では有効なことがあるが、基本的には対面授業が中心となっている。
・ｅラーニングを取り入れている教官は数％に過ぎない。20％以上になれば、スパイラル的に利用者は増加する可能性が高いが、そこまでに引き上げるためには周到な対策を練る必要がある。
・ｅラーニングを成功させるためには、はじめにｅラーニングありきではうまくいかない。受講者と組織のニーズを調査（現状調査、教育対象となる作業や内容などを調査）する必要がある。次に初期分析、設計、開発、実施、評価を行うことになるが、それぞれの段階で評価し、その結果をフィードバックすることが大切。

□ｅラーニングの設計、開発、実施方法
・「producer」というソフトを使えば、パワーポイントと授業動画などを並べて配信できる上、再生速度を調節できるので、学生は自分の都合や好みに合わせて自習することができる。
・ICT@school（http://www.nicer.go.jp/ictschool/#done）というホームページでは、先生のための ICT スキル（コンピュータの基本操作を含む）を指導している。学生のスキルレベルも上げる必要がある。

・リアルタイム評価支援システム REAS（http://open.nime.ac.jp/software/reas）は、デジタルコンテンツの評価支援システムとして開発された Web による調査・集計システムで、調査票を自分で作り公開することができる。K-tai Campus（http://k-tai.nime.ac.jp/pc/）では、携帯電話を通して情報を配信できる。
・NIMEglad というサイトでは、キーワードに関連した学習コンテンツを検索できるので、コンテンツを作成する際に参考になる。

□全体討議
・本からコピーした図などを載せた配付資料をネットワーク配信することは、著作権問題に抵触するとのことで、ｅラーニングの導入に躊躇している。（回答：著作権の問題に関して、メディア教育開発センターのホームページ（http//www.nime.ac.jp）で著作権などの質問をすれば、何らかの対応をしてくれる）
・ｅラーニングを導入すると、学習時間が 25％短縮されたという効果が一般的に言われているが、それはモチベーションの高い企業での例であって、学生とはモチベーションが違うので、同じ土俵で比較できないのではないか。大学では、どのようにモチベーションを高めるかが問題。
・もう少し具体的な例を挙げながら、ｅラーニングの導入が上手くいかなかった失敗例やその理由を説明して欲しかった。（回答：組織としてｅラーニングを実施しないと失敗する可能性がある。ビジョンを明確にし、学長・学部長のトップダウン式で実施したほうがｅラーニングが定着する。）
・様々な教材開発のコンテンツを紹介してもらえたので参考になったが、当大学の学生のレベルやシチュエーションに合わせたｅラーニングの利用法やその効果を紹介して欲しかった。（回答：規模の小さな大学では対面授業が中心となるため、補習教材の配布やレポートのやりとりなど、授業の補助として活用する。）